

石塚遺跡

—富山県高岡市石塚所在の弥生遺跡調査概報—

1986.3

高岡市教育委員会

目 次

発刊にあたって.....	1
例 言.....	1
I. 遺跡の環境.....	2
第1図 地形と周辺の遺跡.....	2
第2図 石塚遺跡と都市計画道路予定地.....	3
第3図 試掘調査区図.....	3
II. 調査の経緯.....	4
III. 調査の概要.....	4
第4図 試掘調査概略図.....	5
IV. 写真図版 1 ~ 6	6

発刊にあたって

高岡は、古くから越中の政治・文化に大きな役割を果してきました。高岡市域には、先土器時代から近世に及ぶ遺跡が数多く残されています。このような歴史をもつ高岡市には、建造物をはじめ、美術工芸・芸能・民俗・遺跡など多くの文化財があります。文化財保護法によって国の指定を受けている重要な文化財や、県指定の文化財も少なくありません。

近年の地域開発事業の進展はめざましく、私達の郷土は刻々とその姿を変えつつあります。また、事業の実施にともなって、郷土の祖先の生活を知る手がかりとなる遺跡の発掘調査も増えてきました。岡らずも、当計画道路は周知の遺跡の範囲を越えるところでの設計でありましたが、工事中の遺物発見により、発掘の経緯を見ることになりました。これも関係諸機関の理解と協力の賜です。

この小冊子が高岡の歴史を身近かにふりかえる機縁となれば幸いです。刊行に際し各方面から多くのご教示と、ご協力をいただいた関係各位に心から感謝し、ここに厚くお礼申し上げます。

昭和61年3月 高岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、高岡市都市計画課の委託を受け、高岡市教育委員会が実施した、都市計画道路（下伏間江・福田線）地内の石塚遺跡の試掘調査概報である。
2. 当調査は、高岡市都市計画課主管の道路築造工事に先立ち、（前期）昭和60年6月10日より7月29日、（後期）9月17日より10月24日に試掘調査したものである。
3. 調査は、富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事・酒井重洋、宮田進一の両氏の指導・助言を得て、高岡市教育委員会社会教育課主事・大野文郷が担当した。
4. 発掘調査、室内整理には次の諸氏の協力を得た。（敬称略）

(1) 発掘調査

田畠健二、坂田悦康（以上富山考古学会員）
盛野弘、太田宗一郎、坂田与三郎、平島富美子、前田祝子、前田きみ子、越畠為子、
山田澄子、盛田みゆき、森田愛子、本沢民子、山良ひさい、竹田美成子、堀井穂作、
志村重雄、志村政雄、上坂政雄、前田誠一、上坂秋子、上坂千代子、山口とし

(2) 土器復元・注記

田畠健二、坂田悦康、古木充宏

(3) トレス・写真撮影

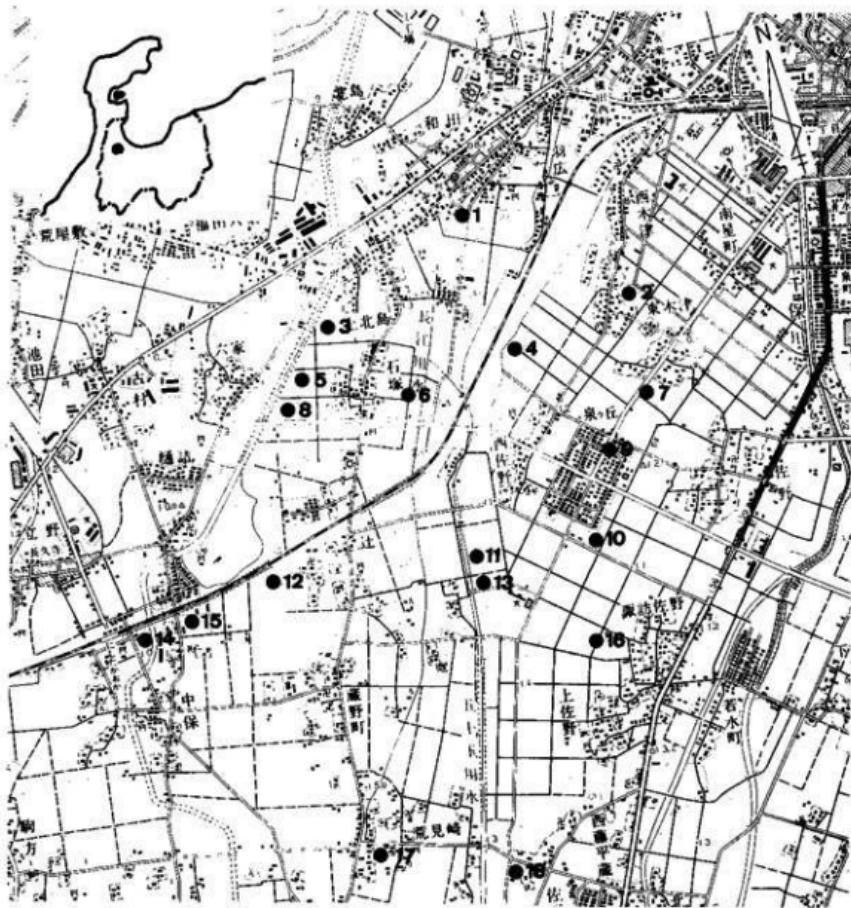
田畠健二、広瀬涉

5. 本書の編集は大野が行ない、報筆は宮田、大野が分担した。
6. 方位は磁北である。

I. 遺跡の環境

石塚遺跡は、高岡市街より南西へ約6kmの地点に、東西に約800m、南北に約700mの範囲と推定される広大な遺跡である。東には、小矢部川支流の旧和田川が、西には、祖父川が流れる。遺跡のある地は、標高約12mの微高地状の沖積平野であり、周辺は水はけの良い水田地帯である。

この遺跡は、北陸における弥生中期の代表的な遺跡とされてきたが、今回の調査により時代幅の広い遺跡と考えられ、近在する荒見崎・石名瀬・佐野遺跡との関連は今後の調査に待たれる。



第1図 地形と周辺の遺跡 (1/25,000)

1. 寺野遺跡
2. 西木津遺跡
3. 石塚江戸遺跡
4. 石名瀬B遺跡
5. 石塚五俵田遺跡
6. 右塚遺跡
7. 東木津遺跡
8. 石塚蜻保遺跡
9. 犀ヶ丘遺跡
10. 下佐野遺跡
11. 石名瀬A遺跡
12. 汗遺跡
13. 西佐野千代遺跡
14. 中保B遺跡
15. 中保A遺跡
16. 诹訪遺跡
17. 荒見崎村内遺跡
18. 西藤平成道路

第2図・石塚遺跡と都市計画道路予定地（1 / 10,000）



第3図・試掘調査区図（1 / 2,500）



I. 調査の経緯

都市計画道路（下伏間江・福田線）は、石塚遺跡の北端から外れての着工であったが、昭和59年度の工事により、弥生時代・奈良・平安時代の各土器破片が出土した。また、近辺より円面鏡が表採されるに至り、高岡市都市計画課、同市教育委員会及び富山県埋蔵文化財センターとの協議のうえ、既に工事の終わっている部分を除く約4,860m²の試掘調査を行なうことになった。

長江用水の東側を前期調査区、西側を後期調査区に分け調査をした。前期調査区に幅約1m、長さ約100mの帯状のトレンチを適宜3本設定した。後期調査区は、側溝部分を含む幅約2m、長さ約150mのトレンチ2本と、中央部に幅約1m、長さ約150mのトレンチ1本を設定し、道路予定地中央部を横断する農道部分を除いた。

前期調査区は、一部に搅乱層が在るがほぼ良好な遺存状態である。後期調査区は、大部分が削平を受けており遺構は検出されず、極く一部に凹状の地形が在り、散在する遺物と共に掘り上げた。

今回の調査で、前期調査区は遺構・遺物が豊富であり、後期調査区は遺物が散出する程度のため、昭和61年度に前期調査区は全面発掘調査を行なう予定である。

III. 調査の概要

1. 地形と層序（第2図、図版1）

後期の調査区は、遺構が確認できないので、ここでは、前期の調査区について述べる。

平坦な水田が続く地形に幅1mの試掘溝を入れた。土層は1層（表土）、2層（茶褐色土）、3層（黒褐色土）、地山である。1層から3層までは深い所で140cm、浅い所で20cmほどである。

2. 遺構（第4図・図版1～3）

穴・溝などの遺構が多数検出した。穴には1mの方形のものや2mの円形のものがある。特に2トレの西部分にある、幅約10mの落ち込みは住居跡になるかもしれない。3トレでは、20～30cmの柱穴状の穴があり、掘立柱建物の存在も予想される。溝には1～2mのものが多く、覆上から弥生時代の遺物が出土している。

3. 遺物（図版4～6）

遺物は遺構の覆土上面以外に2～3層からも出土している（図版2の1）。時代は縄文時代から近世まであり、特に弥生時代と中世のものが多い。

弥生時代 弥生土器（5～12・15～17・22～28・33・34）、安山岩質の石鏡（2）、ひすいの勾玉（3）がある。土器には裴壺、鉢がある。裴壺、鉢には、櫛指文、綾杉状刺文がある。天王山系土器もある。

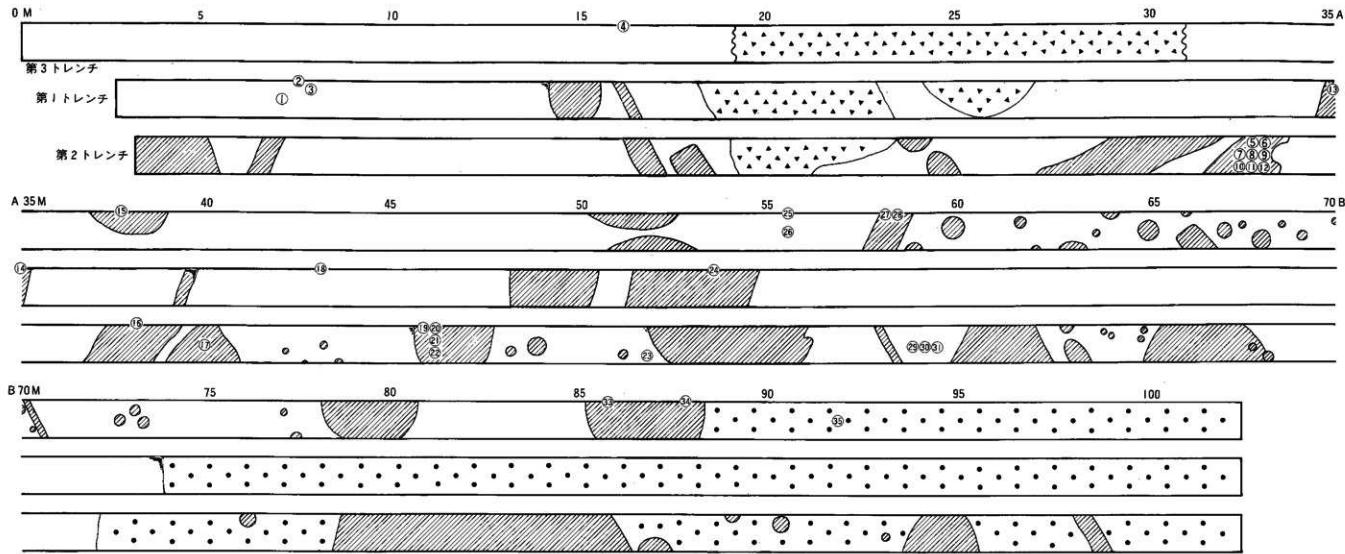
中世 珠洲（32・35）、土師質小皿（29～31）、瀬戸の香炉（1）、土製あんか（13）、越前の壺、青磁碗がある。珠洲には、口縁部が玉縁状になる裴壺や口縁部に櫛描波状文のある擂鉢がある。

その他、古墳時代の高杯、奈良時代の広口壺（2）、平安時代の糸切り底の碗（1）がある。

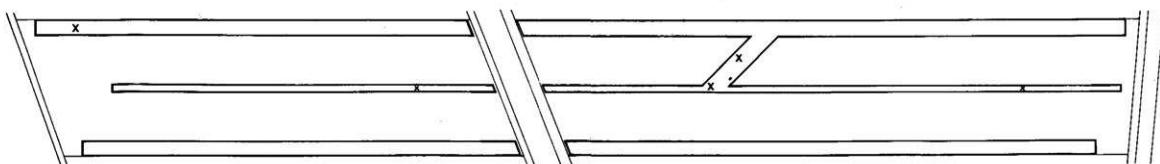
4.まとめ

前期の調査区には、遺構・遺物が多数検出された。遺物は弥生時代と中世のものが多いことから、遺構もそれらの時代に属すると考えられる。以上、この一帯には大規模な集落が予想される。（宮田）

第4図 試掘調査概略図 前期調査区図 (1/100)



後期調査区図 (1/500)



図版 1



1・発掘前全景



2・発掘作業風景



3・調査作業



1・第1トレンチ
遺物出土状況



2・第2トレンチ
遺物出土状況



3・第3トレンチ
遺物出土状況

図版 3



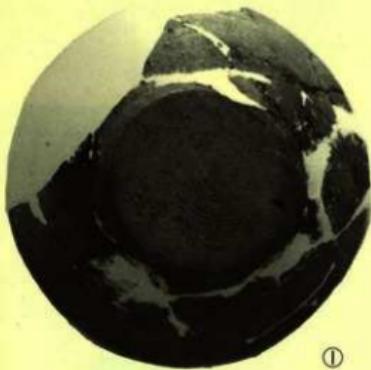
1・第2トレンチ
遺物出土状況

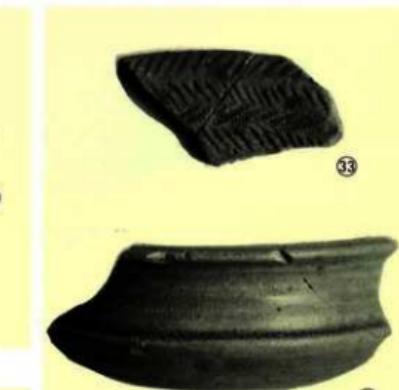
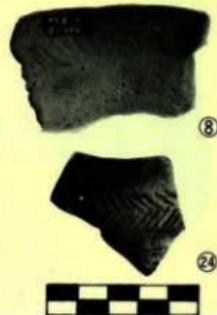


2・第1トレンチ
遺構見出状況



3・第3トレンチ
遺構見出状況



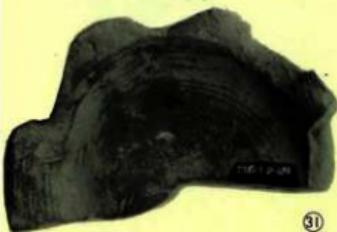


14



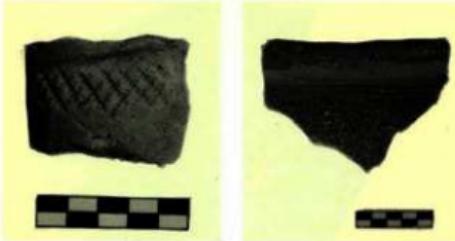
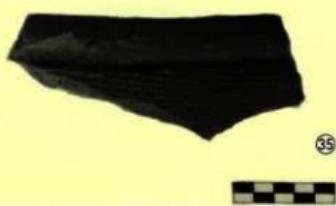
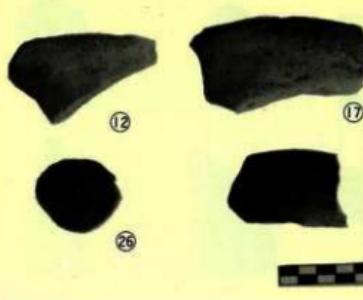
3

9



31





富山県高岡市石塚遺跡調査概報

編集・発行 高岡市教育委員会

発 行 日 昭和61年3月28日

印 刷 所 南日康堂印刷

